

栄養やまぐち

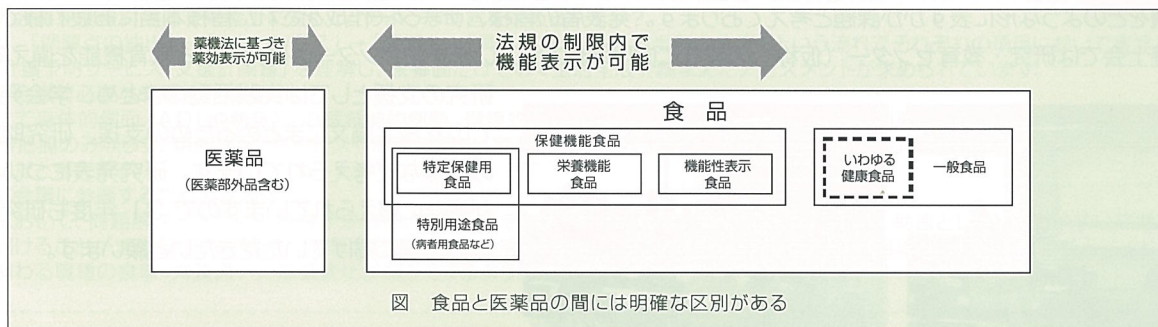
健康食品にかかわる表示規制

山口県立大学 看護栄養学部 栄養学科 准教授 大野 正博



健康食品というくくりは誤解を生じやすいので、まず制度上の区分について説明をします。

“健康食品”という名称の食品には法的根拠はなく、また“サプリメント”や“栄養強化食品”、“栄養補助食品”といった制度も存在しません。法的な根拠によらず健康食品を名乗っている食品は“いわゆる健康食品”と呼ばれ、あくまで自称健康食品です。一方、特別用途食品(病者用食品など)や保健機能食品(特定保健用食品など)は、国の制度に基づいて機能性を表示している食品であり、正真正銘の健康食品と言えます。



しかし、特別用途食品や保健機能食品が機能性を表示することができるとしても、医薬品の様に疾病を改善する機能や、症状・体調を改善する機能を表示することはできません。医薬品において可能である薬効表示は、“医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律”(薬機法)によって規制されています(この薬機法は、2014年に薬事法が改正されて制定されました)。食品も医薬品も、口から摂取され体内に成分が吸収され得る物ですが、食品と医薬品は法律によって明確に区別されています。国の制度に基づき機能性表示が可能である特定保健用食品(特保)であっても食品の一つにすぎません。特保で表示することができる機能性は厳格に制限されており、「血圧が高めの方に」という表示は可能ですが「血圧を低下させる」という表示は法規に抵触するため表示できません。たとえ臨床試験により血圧低下作用が明確に実証されていたとしても、食品において血圧低下作用を表示することはできないのです。

特保など、国の制度にのっとって機能性を表示している健康食品であれば問題が生じることは少ないのですが、消費者

に対して誤認を生じさせやすいのが“いわゆる健康食品”です。「医者にかからなくても〇〇病が治る健康食品」といった表示は、医療機関による治療の機会を奪うことで保健衛生上重大な問題を招くおそれがあります。また、「〇〇病に効くと言われている」という学説・評判を根拠とした表示は虚偽誇大表示のおそれがあります。「最高のダイエット食品」という表示については、現存製品の中で最高の効果を発揮することを立証することは不可能であるため、虚偽表示に該当します。また、“いわゆる健康食品”において、ある使用者の体験談を用いた広告をよく見かけますが、科学的根拠のない体験談は虚偽誇大表示のおそれがあります。

厚生労働省などの当局は、以上のような問題のある表示に対して指導を行ったり、悪質である場合には罰則を適用するといった対応をしています。しかし、どこまでの表示がセーフで、どこからアウトなのか明確な線引きは非常に難しく、グレーゾーンのギリギリの内容で表示を行っている“いわゆる健康食品”が多く存在するのが実状です。

CONTENTS

- ② 研究発表
- ②③ 研究者インタビュー

- ④ 研修会案内
- ④⑤ 地域包括ケアシステム

- ⑥ 編集後記



平成31年2月9日に平成30年度栄養士研究発表会を開催いたしました。この事業の目的は、「実際の学会発表につなげるため、学会等基準に沿ってまとめ発表する技術を学ぶ。」「管理栄養士・栄養士の日常業務の中で経験する課題と対策について分析し、まとめることで学術的な研究に繋げる力をつける。」「研究発表会を通して情報共有し、管理栄養士・栄養士各職域の業務について理解を深める。」等会員の資質向上を目指しています。

今年度は82名の参加者がありました。発表内容としては職域専門部会から午前3演題・午後3演題をオール発表（口頭）とし、地域専門部会からの8演題はポスター発表といたしました。学術部長としてこの方法に変更し4年目となります。発表内容も各分野多岐にわたり年々盛り上がりが見えて大変喜ばしいことだと思います。

オール発表（口頭）とポスター発表二つの形式としましたが、各職域専門部会の皆様にはオールでの発表をお願いしました。オール発表では研究内容をパワーポイントにまとめ、口頭でわかりやすく説明する技術が求められます。どの演題からも研究やそれらを仕事に活用された効果がわかりやすく伝わってきました。

ポスター発表では聴講者との距離が近いので、自分の研究を一枚の紙媒体にまとめ、何が言いたいのか一目で伝わるよう、表やグラフや写真を駆使して説明する技術が求められます。また、ポスターに表現してすることで、発表内容を有効活用できます。29年度には地域専門部会のポスターを、山口県総合保健会館内に掲示するチャンスを頂きました。県民の皆様にも管理栄養士・栄養士の活動内容を広報できたのではないかと考えています。今年のポスターも山口県総合保健会館内に掲示していただける様活動いたします。

また、今年度は新たな試みとして、ポスター会場を2部屋にし、聴講者をシャッフルすることで、全ての演題を参加者全員に聴講していただけるように工夫しました。発表者は2回発表することになり大変申し訳ありませんでしたが、お陰様でどれも時間が足りないくらい活発な質疑応答が行われました。各地域専門部会の活動が見える化され、とても良かったと思います。今後はオール発表の皆様業績をどのような形に表すかが課題と考えております。発表者の皆様、データ作成をされた皆様本当にお疲れ様でした。

日本栄養士会では研究・教育センター（仮称）の設立に向け準備をしています。センターは研究機能と教育機能を備えています。

研究の支援としては実践活動のまとめ、学会発表に向けての支援、論文にまとめるための支援、研究助成応募への支援など考えられています。研究発表についての環境が徐々に整えられていますので 31 年度も研究発表を一つの目標に掲げていただきたいと思います。



テーマ「在宅訪問栄養食事ケア人員の増員可能性と育成」

地域専門部会 松村 史樹会員



- 訪問栄養食事ケア人員の育成には、訪問栄養管理学会や日米栄養士会および各県栄養士会が携わっているが、人員育成を進めても着手する管理栄養士の少なさは育成内容に不足するものがあると考えたため、地域専門部会に調査を行うこととした。
- 調査内容の結果の焦点を絞って端的にまとめることや、スライドも伝えたいところに絞って見やすく工夫した。
- 専門性の異なる不特定多数に、いかに内容や結果が上手く伝えられるかプレゼン技術の研鑽効果がある。新しいことへ取り組むモチベーションに繋がる。調査研究はアセスメント能力でもあるため、栄養士業務においても視点や考え方がスキルアップする。
- 自分のやったことを振り返り、改めて見えてくるものや、知りたいことを追求することで新しい発見が得られることはとても楽しいことです！発表のための発表ではなく、自分が楽しめる研究をして、楽しんだ結果から得られたことを発表できると「聞き手」にとっても良いものになるのではないかと思います。

テーマ「柳井市の食育推進～料理コンクールの実施を通して～」

公衆衛生専門部会 加藤 友美会員



- 健康づくりや食育を地域に広く進めていくためには、他と連携した取組が必要と感じる中で、その第一歩は関係機関や関係団体と課題を共有し、相談することから始め、できるだけ多くの関係者にできることから関わってもらえることが大切となることなどが伝えられるとよいと思って。
- 大きな事業のポイントをどう絞って時間内にまとめるか苦労しました。
- マンネリ化しがちな事業をPDCAに基づいてまとめてみると、次の課題が見えてきました。
- 普段実施している事業を整理することができ、次に活かすことができる良い機会になりました。

テーマ「県東部地区栄養教諭等の現状と課題解決に取り組む研修会の検証」

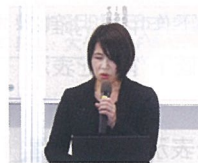
学校健康教育 浦辻 彰江会員



- 夏期に行った研修会の成果をまとめていた。
- 色々な職域の栄養士にもわかりやすい内容とする。
- まとめることのスキルアップ、人前で発表することへの自信につながった。
- 今回の発表は色々な方に助けていただいて、実現しました。研究に行き詰まった時には、周りの方に相談しながら進めることも大切だと思います。

テーマ「食欲が低下した患者の食欲増進に向けての取り組み」

医療専門部会 末兼 佐知子会員



- NSTにおいてコンサルタントの歯科医師が、摂取量を増やすツールとしてカレー粉を使用してみてはと提案があり、摂取量が少なく、低栄養の患者を対象にデータをとった。
- 筋肉量の評価について、上腕周囲長や下腿周囲長を用いたので測定に誤差が生じやすい。
- 回復期リハビリテーション病棟における栄養管理について、どうすることが必要であるかを再考することができた。またデータの分析方法などが学べた。
- 管理栄養士の必要性を理解してもらうためには、どうしているかなどのアピールが必要と思われます。学会発表・研究発表を通してそれらが主張できたらよいのではないかと思います。

研究者インタビュー

質問

1. 発表のテーマとこのテーマに決めた理由は?
2. 発表するにあたって苦労や工夫したことは?
3. 研究発表することは自身のスキルアップにどのような効果がありましたか?
4. これから研究発表を考えておられる方へのメッセージをお書きください

テーマ「嗜好調査から見える知的障害者支援施設での食の問題と取り組みの現状」

福祉専門部会 田中 真理子 会員



1. 長年入所されている方の嗜好や食事における問題点の変化を知りたかった。
2. 福祉の現場ではない栄養士の方々に重度知的障害者施設の現状をわかりやすく説明するところ。グラフや写真をたくさん使用しパワーポイントのアニメーションを活用した。
3. 以前より取り組みたかったテーマだった。利用者の過去と現在を知ることで問題点が明確になり今後取り組むポイントを整理できたことは良かった。
4. 日頃の業務をしながらで大変でしたが、自分の所属以外の方々に業務内容をアピールする良いチャンスだと思う。頑張って発表してみてください。

テーマ「ポリフェノールによる米澱粉消化の抑制」

研究教育専門部会 廣田 幸子 会員



1. ポリフェノールの新しい機能であるから。
2. 他の研究者との議論がなかなかできない。
4. 本日他の先生方の発表を聞いて、やはり協力して研究を進めることが大切だと思った。



テーマ「歯科医師とともに「食べる」を考える～お口の健康考えマウス～」

岩国地域専門部会 山田 智子 会員



1. 今年度、歯科医師会と連携した事業を中心に取り組んだので。「歯科医師との連携」「口の健康」をテーマとしました。
2. 幅広い年齢層への啓発活動、栄養士の資質向上の事業を相互に、つながりを持たせる、一連の流れを持たせるように工夫しました。
3. 学校に勤務の私にとって、「地域包括」「高齢者への食支援」の取組を行い、発表する流れの中で、介護や病院の栄養士の方々に色々教えていただき、幅広く学ぶことができました。
4. 事業を実施する際には、アンケート等で評価をデータ化すると地域の課題が見えてくる。

テーマ「食育SATシステムによる食事診断から見える食事傾向の把握」

柳井地域専門部会 茶川 早苗 会員



1. 今回、予想以上の参加者があり多くのデータを集められた事で、地域の問題点を考察できるのではと考えたから。
2. 活動を理論的に考えることが苦労しました。
3. 以前栄養士の研修会で、「学会などで研究発表する管理栄養士が少なすぎる。日ごろの業務の成果を他者に評価してもらわなければ、栄養士の働きを他職種や国に知ってもらえない。」といった言葉を聞いた覚えがあります。「研究する」という目的ができる。「何が問題なのか?何を追及したいのか?どう結果がでたのか?」を考えて活動をするようになり、やみくもに活動するよりも有意義な活動になるのではと感じました。
4. どのような活動や業務であっても「研究」する考えで挑めば、研究発表できる題材になると思います。より有意義な活動となるよう、日ごろの活動や業務を「研究」していただければと思います。

テーマ「栄養バランスのよい食事をめざして～野菜を食べよう～」

周南地域専門部会 斉藤 茜 会員



1. 脳血管疾患予防を目的にした生活習慣病と食事の関連をテーマとし、今回は野菜の摂取量増加と減塩に配慮したバランス食の活動報告を行うこととした。
2. 時間の都合上、役員全員が集合して意見交換をすることが難しく、グループLINEやメール等で情報共有を行いながら資料作成を行いました。
3. 地域での活動や健康課題に触れ、業務とは異なった目線で勉強する機会となりました。役員の活動を通して、地域における同職種連携の必要性も肌で感じ、自分の所属においても出来ることを増やしていきたいという思いです。
4. 自分の職域以外の活動や経験をするいい機会だと思います。栄養士研究発表会を通して発表の場に慣れるということは自分の自信に繋がっていくのではないのでしょうか。

テーマ「「市場で学ぶ・食べる健康料理教室(H30)」を開催して」

防府地域専門部会 村田 麻由美 会員



1. 防府地域で継続的に行っている活動を知ってもらい意見をいただくため。
2. ポスターの限られたスペースに情報を載せるため見やすさを重視した。写真をもっと撮っておくべきだった。
3. 人前で話す機会が少ないので、良い練習の場となった。
4. ポスター発表はオーラルより発表のハードルが下がるので挑戦しやすい。

テーマ「へら塩大作戦! みそ作りと無理なくできる! 減塩チャレンジ」

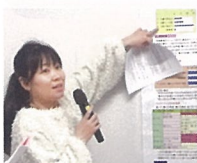
宇部地域専門部会 小林 まり 会員



1. 市民の皆様へ食塩の摂り過ぎによる体への影響について考え、減塩にチャレンジする機会をつくり、無理なく継続することで減塩の習慣を身に付けていただきたいことから。
2. 発表内容を皆様に分かりやすく、要点を絞りまとめることが大変でした。事業の様子の写真や実際に使用したものをポスターに取り込み、事業内容が伝わるようにしました。アンケート結果は、グラフも取り入れ、傾向が分かるようにしました。
3. 相手に物事を伝える勉強になり人前で話す自信が少なかったように思います。今回は、2回発表することになり、発表前はとても緊張していました。2回目の発表のときは、1回目の時よりも落ち着いて発表することが出来ました。
4. 研究発表会は、他の地域の方の活動を知ることができ、いろんな活動内容を聞くことが出来るので、勉強になります。

テーマ「夏休み親子教室の食育としての効果について」

山口地域専門部会 植田 安莉亜 会員



1. 夏休みは食生活も不規則となりやすい、また親子での時間も取りやすいこの時期の料理教室の効果を検証する。
2. 研究発表に対する知識はなかったが、チームの方々に尋ね、自分なりに勉強した。
3. 決められた様式にまとめる作業や、データの見える化、伝え方を学び、以前より人に伝えられるようになった。
4. 日々の情報収集の見方が変わります。

テーマ「“ツール・ド・しものせき”での栄養士の役割」

下関地域専門部会 岡田 伊代・中川 初美 会員



1. 20～50歳の健康管理行事に参加が少ない年齢層の男性に対する、栄養成分表示を主にした栄養士の働きかけによる効果を広く他の地域の方へも知ってもらうため。
2. ポスターの字の大きさや写真、グラフの配置
3. 発表することで、実施内容の振り返りと次への改善点や伝えたい内容などを考える機会になった。文章を考えたり、流れを考えたりして人に伝わるように気をつけた。発表することがなかなかないので、よい機会
4. 特になし

テーマ「栄養士のネットワーク構築について」

北浦地域専門部会 柴田 至且 会員



1. 専門部会の研修会を実施した際ネットワークの重要性に気づきつながりを持つことで広がる仕事について会員に知られるため。
2. ポスターの中で伝えたい情報の絞り込みと色使い。サイズの中で最大限字を大きくしつつ、スペースも確保すること。
3. ポスター作成でシンプルに見てもらうため工夫したことは自らの仕事の中にもフィードバックすることができた。
4. ポスターの向き、サイズなど規定の中で作成することは学会発表等へつながることなので、見てもらう工夫、内容だけではなくルールも守りながら発表しましょう。

在宅療養者への栄養・食事支援のために 医療の面から見た(公社)山口県栄養士会として取り組むべき喫緊の課題

業務執行理事 栄養ケア・ステーション推進委員 野崎 あけみ

我が国は未曾有の少子高齢化社会に突入しました。今後さらに介護費用や医療費が国の財政を圧迫し続け今までのような手厚い医療は受けられなくなることが予想されます。一方、高齢者は誰でも住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最後まで続けたいと願っています。そこで国は医療費低減策の一環として過度な病院頼みから抜け出し、地域で高齢者を支える仕組みである地域包括ケアシステムの構築を強力に推進しています。

地域包括ケアシステムとは、各地域に住んでいる高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい生活を人生の最後まで持続できるように、病院や施設の持っている介護や医療の機能・住まいや生活全般の支援といった、高齢者を支えるサービスを地域で一体的に提供するシステムのことです。

すでに医師・看護師・薬剤師など他の医療職種は在宅訪問を行い入院と遜色のないケアを活発に実施しています。管理栄養士・栄養士は訪問するための仕組みがないことから波に乗り遅れなかなか訪問栄養指導に至っていないのが実情です。

しかし栄養・食事支援は高齢者の生活の質を保証する最も大切な要素です。日本栄養士会は、管理栄養士・栄養士による栄養ケアサービスの確実な提供を目指し「栄養ケア寄り添い型ソリューション事業（よりソリプロジェクト）」を立ち上げています。そして管理栄養士は栄養の専門職として地域包括ケアシステムに積極的に参画すべきであると考えています。すでに国や日本栄養士会はモデル地域を定め予算を付けて先駆的地域包括ケアに取り組んでいます。栄養士会雑誌 2018 年 12 月号で「在宅療養者への栄養・食事支援の現状と管理栄養士の役割」が特集されました。この中では、地域包括ケアシステムの構築に取り組んできた山形県・愛知県・岡山県栄養士会の事例が紹介されていますので是非ご一読頂きたいと思います。

山口県においても岩国地域・周南地域・山陽小野田地域で管理栄養士が地域ケア会議に参加し多職種と一緒に活動を開始しました。会議の中で管理栄養士の存在感をアピールできる役割とは何か真剣に模索されています。ここではそれぞれの担当者の活動内容を紹介し(公社)山口県栄養士会として取り組まなければならない課題を明確にし、来年度の研修会に繋げたいと考えています。来年度山口県栄養士会の本部事業に「在宅訪問栄養指導担当者研修会」及び「多職種連携強化研修会」を計画しております。時代は在宅へと動いており、在宅訪問栄養指導を担える管理栄養士が必要とされています。会員の皆様来年度の研修会には是非ご参加下さい。

地域ケア会議での管理栄養士の役割



6/8
土

佐々木 敏先生 研修会ご案内

- 日時** 6月8日(土)山口県栄養士会総会終了後 **テーマ** 「日本人の食事摂取基準(2020年版)」改定のポイント
- 講師** 東京大学大学院医学系研究科教授 佐々木敏 先生
- 紹介** 佐々木敏先生は「日本人の食事摂取基準(2020年版)」策定検討会ワーキンググループ委員長として中心的役割を果たされた先生です。
「日本人の食事摂取基準(2020年版)」は今年告示され2020年~2024年使用されます。管理栄養士・栄養士にとって学ぶべき最も重要な基礎知識です。
「日本人の食事摂取基準」は数万編の論文・人間栄養学・栄養疫学の科学研究に基づき策定されています。今回改定のポイントはエビデンスの少なかつた高齢者の栄養が取り上げられ充実しているところです。佐々木先生の熱意あふれるご講演6時間を予定しておりますので多数ご参加下さい。理解を深めるために下記ホームページの予習をお勧めします。

※参考 厚生労働省ホームページ 「日本人の食事摂取基準(2020年版)」策定検討会

ガスで涼しく、ガスでおいしく!



山口合同ガスの涼しい厨房「涼厨」シリーズ

- 快適** 25℃以下の厨房環境で快適です。
- 経済的** 空調にかかる消費電力を減らせます。
- 安心** 熱くないからヤケドの心配がありません。
- 簡単** 機器の入れ替えが簡単です。



山口合同ガス株式会社

〒751-8508 下関市本町三丁目1番1号 ☎083-223-2115
<http://www.yamago-gas.co.jp/>

動き出した山口県栄養士会の地域における栄養ケアサービス 岩国地域・周南地域・山陽小野田地域の現状と課題

「地域包括ケアシステムについて岩国市における活動報告」

岩国地域専門部会 老人保健施設ふれんず
松宮 裕子



- ①地域ケアシステム活動内容(会議開催状況・頻度・参加者・対象者等)
 - ・岩国市地域包括ケア推進協議会 3回/年 (5つの日常生活圏域に分けて) 各2回/年
 - ・岩国市地域包括ケア推進協議会専門部会(医療部会)
 - ※それぞれの圏域に勤務する栄養士が担当
 - ・岩国市地域包括ケア推進大会 1回/年
 - ※各職域が介護に関するイベントコーナーを実施。平成30年度は岩国歯科医師会と協働し実施。
「最後まで自分の口で食べ続けるために～飲み込む力について学ぼう～」
- ②地域ケア会議症例検討場面で栄養士に対してどのような助言を求められたか?
 - ・栄養士の視点から食事に関する助言を求められた。
- ③地域ケア会議で必要な栄養管理技術とは?
 - ・短時間で情報収集を行い、その中から栄養の上の問題点を見つけ実施可能な助言を提案すること。
 - ・生活背景を考慮した助言を行うこと。
- ④地域ケア会議に参画するための課題は?
 - ・食事に関することは栄養士が関わる必要がある!とってもらえるよう、他職種にアプローチしていく。
 - ・他職種とのつながりを作る。(仲良くなる!)



「地域ケア会議 山口県の取り組みと今後の課題」

周南地域専門部会
(医療法人社団生和会徳山リハビリテーション病院)
斉藤 茜



- ①地域ケアシステム活動内容(会議開催状況・頻度・参加者・対象者等)
会議開催状況
 - 頻度 地域ケア会議勉強会1回(6月)、模擬地域ケア会議1回(9月)
 - 参加者 地域包括支援センター職員・行政職員等
 - 助言者 薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、精神保健福祉士、管理栄養士、介護福祉士、主任介護支援専門員、社会福祉士、保健師、看護師等
- ②地域ケア会議症例検討場面で栄養士に対してどのような助言を求められたか?
事例より、「問題点の抽出」→「ストレングス」→「課題」→「具体的方法」→「担当者の決定」という流れでそれぞれの項目において意見を求められました。「介護予防サービス・支援計画書」を理解し、栄養面だけでなく生活全般を踏まえたアセスメントが求められています。
- ③地域ケア会議で必要な栄養管理技術とは?
勉強会にて身体的側面(ADLや病気)、心理精神的側面、環境的側面に関する全方位的アセスメントが重要と学びました。栄養ケアマネジメント手法や病態把握のみならず、精神状況、サービスや制度の理解、薬剤情報等を読み取り、支援目標につながるような栄養改善に向けた提案を行えることが大切だと考えます。
- ④地域ケア会議に参画するための課題は?
各症例において、問題解決に向けて他職種が求めているニーズを的確にキャッチし、アセスメントを行い、助言としてわかりやすい言葉でポイントを簡潔に届けることが求められていました。地域の社会資源を理解し、栄養士・管理栄養士だから気付ける目線を情報発信することにより、日常的に対象者へ関わる職種の食事・栄養面への意識変化が起きてくるように感じました。

「やっぱり栄養のことは栄養士に任せるといいね」を目指して

宇部地域専門部会 山陽小野田地域 小野田赤十字病院
中野 恭子



- ①地域ケアシステム活動内容(会議開催状況・頻度・参加者・対象者等)
 - 頻度 年間4回(平成30年度5/10・8/30・11/15・2/28)
 - 参加者 病院看護師・地域連携看護師・薬剤師・歯科医・社会福祉士・訪問介護施設長・訪問看護師・通所介護事業所長・理学療法士・医師・介護支援専門員・作業療法士・管理栄養士
 - 研修会 在宅医療・介護連携推進研修会
 - 頻度 年間3回(4/19・7/19・10/18) ※通常は4回だが、今年は3回
 - 参加者 医師・病棟看護師・介護支援専門員・薬剤師(学生含む)・作業療法士・社会福祉士・訪問看護師・包括センター職員・介護福祉士・歯科医師薬剤師・理学療法士・ヘルパー・行政職員・介護士・保健師医療ソーシャルワーカー等 毎回150名前後の参加がある。
- ②地域ケア会議症例検討場面で栄養士に対してどのような助言を求められたか?
*在宅での栄養管理について
 - ① 低栄養や、糖尿病や高血圧などの疾患に対する助言
 - ② 誤嚥性肺炎による入退院を繰り返す患者への助言
 - ③ 間食が止められず肥満が止まらない方への助言
 - ④ その方に適切な食事形態はどういったものか
 - ⑤ 必要栄養量と摂取栄養量は合っているのか
 - ⑥ 配食サービスがない朝食の取り方
 - ⑦ 高齢者が簡単に作る事ができる献立
- ③地域ケア会議で必要な栄養管理技術とは?
高齢者の在宅の現状を把握したうえで、実現可能な助言をすることが求められると思います。ある時は金銭面であったり、支えてくれる若い家族が近くに住んでいるのか、時には家にクーラーが設置されているかどうか(脱水による脳梗塞で入院を繰り返す患者の家にはクーラーがなかった)、そういった情報をいかに多く把握し、さまざまな視点で問題点を掘り起こして、アドバイスすることが必要だと感じます。
- ④地域ケア会議に参画するための課題は?
まずは所属する市町村の在宅の高齢者を支える仕組みを理解し、それに関わるたくさんの職種(上記の研修会の参加者等)が、どのタイミングでどういった介入をしているのかを知ることです。そして、やはり「高齢者が在宅で暮らす現状」を知ることだと思います。それらを理解すれば、いま栄養士に求められていること、現在他職種が困っていることで栄養士が解決できること、そしてそれを実行するために、どの職種とどのタイミング(入院中・退所前・在宅)で協力すれば解決できるのかが見えてきます。今の自分にできることがおぼろげながらも理解できると、参画しやすいのではないのでしょうか。
また逆に言うと、参画することによって、在宅医療に関わる他職種の仕事内容やそれぞれの視点を知ることができます。よって、将来もしも在宅に関わる栄養管理を実践することを求められた時に、そこで得た知識や築いた他職種との繋がりが必ず役に立つということを知ることだと思います。

東洋羽毛「睡眠セミナー」無料サービスのご案内

Sleeping seminar

◆こんなお悩みはありませんか？

- ・夜勤明け、体は疲労しているのになかなか眠れない。
- ・寝起きが苦手で起床時間ギリギリまで起きられない。
- ・睡眠時間は長いのに、眠りの質に満足できない。

◆睡眠セミナーを無料で開催しています

東洋羽毛では「睡眠健康指導士」の資格を有した講師による充実したセミナーをご用意しています。

- 睡眠の科学的メカニズム
- 社会的な睡眠の重要性
- よりよく眠る方法
- よりよく眠るための心得
- 交代制勤務の負担を軽減する眠りのヒントなど

睡眠セミナー実績

- ◇広島看護協会東広島・竹原支部
- ◇日本赤十字社 柏原赤十字病院
- ◇仙台厚生病院
- ◇愛知県看護連盟総会
- ◇国立病院機構 徳島病院
- ◇神奈川県立 足柄上病院
- ◇(社福) 恩賜財団 済生会兵庫東病院
- その他多数



睡眠セミナーの様子

セミナー受講後の感想

- ・出来ることは、今日からでも実践したいと思います。
- ・「なるほど!」と思えることがたくさん有り、勉強になりました。
- ・睡眠に関しての自分の知識が合っていて安心しました。
- ・看護職として、睡眠の重要性をあらためて認識しました。

研修会や勉強会、学会でのコーヒーサービスもご提供しています。



セミナーに関するご相談はお気軽にご連絡ください!

TUK 東洋羽毛中四国販売株式会社
山口営業所 ☎ 0120-383843
〒753-0222 山口県山口市大内矢田南8-12-2

食べたいときに、すぐおいしい。



健康を気にしてる方に4つのケアシリーズを!
塩分、カロリー、たんぱくを気にされている方向けのお弁当です。

<http://shokutakubin.com/>

塩分
ケアコース

塩分を控えたい方のために
塩分 2.0g 以下

※1食あたり、ご飯150gとおかずの合計

カロリーケア
1200コース

カロリーを控えたい方のために
約400kcal 以下

※1食あたり目安、ご飯100gとおかずの合計

カロリーケア
1600コース

カロリーを控えたい方のために
約530kcal 以下

※1食あたり目安、ご飯150gとおかずの合計

たんぱく
ケアコース

たんぱく質を控えたい方のために
たんぱく質 約13g 以下

※1食あたり目安、ご飯150gとおかずの合計



通話料無料 **0120-8149-39**
8:30 ~ 20:30 (土日祝でも可)

(販売者) 東京都千代田区丸の内 2-7-3 東京ビルディング 20 階

ヘルスケアフードの明日を考える
日清医療食品株式会社

NAKANISHI

食は **チカラ。**

ナカニシは学校給食、病院給食、企業や大学の食堂、外食など業態ごとのキッチンシステムをトータルにご提案します。

重要!



業務用厨房機器総合メーカー
株式会社 中西製佐所

山口営業所: 山口県小郡花園町1番51号右田ビル1F 〒754-0022
TEL: (083)976-8831 FAX: (083)976-8851
■東京本社: 東京都中央区新川一丁目26番2号新川INSビル104-0033
TEL: 大代表(03)5541-6333 FAX: (03)5541-0155
■大阪本社: 大阪市生野区巽南五丁目4番14号 〒544-0015
TEL: 大代表(06)6791-1111 FAX: (06)6793-5151

事務局より

- ※平成31年度(2019年)会費納入をお願いします。
- ※2019年度通常総会案内 6月8日(土) 山口県総合保健会館第1研修室